

解説特集「産学連携による教育システム情報学の 価値創造と今後の展開」

松浦 健二

(産学連携委員会委員長)

1. はじめに

“産”な皆さま，“学”な皆さま，その他の皆さまも，立場・属性の異なる方々との間で積極的にコラボレーションあるいはエンゲージメントができていくか一度考えてみていただきたい。まだそうした相手と一度も協働したことがないという方は，多少刺激的な表現にすれば，「既に取り残されている」かもしれないし，場合によっては「考え方や姿勢においてバランスが悪くなっている」のかもしれない。

端的には，“学”から見ると“産”との相互作用により実社会との乖離や距離感が軽減または改善され，新たな研究対象に出会うことも期待できる。また“産”から見ると“学”との協働はその活動や成果に対する真正なる裏付けや評価を得る機会ともなる。共同研究の成果は，論文という典型的な出力先でなくとも，特許，システム，制度などに帰結する可能性は高まる。そこでは，研究に対する有用性や信頼性を高める効能が協働によって得られ，また新規性に繋がる新しい発着想手への近道ともなりうることを，双方の立場で念頭に置いてほしい。

本解説記事では，既に十分熟知している方にも別の観点が加われば幸いであるが，主な想定読者としては，もっと産学連携・共創に取り組めるのにまだ踏みとどまっている方々に積極的に読んでいただきたい。特に後者の方々においては，個々の現状理解より，少しでもこうした世界観への意識を強める契機としていただきたい。教育システム情報学会の解説記事としてはこれまでになかったような切り口からの解説となっており，楽しみに読んでいただきたいとも思う次第である。

2. 解説記事の概要

本解説記事では4件のバラエティに富んだ記事が集まっており，可能な限りすべて読んでみてほしい。本解説記事特集では，上記のような読者を想定した掲載順を検討した結果，下記に示す記事とさせていただいたが，無論，読みたい記事を読んでいただければ幸いである。解説記事の扉を開くうえで，僭越ながら，個々の記事を以下にまず紹介する。

■解説1

「香川大学の産学連携／共創の取り組みについて」

香川大学では，研究だけでなく，教育や組織連携において，興味深い取り組みを「上手に」進めている。そこで，本解説では，教育連携，共同研究などを可能な限り具体的に紹介していただいている。連携の事例がわかりやすくまとめられている。これら多数の取り組みが連続して行われていることの理由をそれぞれの立場から読み解いていただきたい。

■解説2

「学術界と産業界の相互理解イベント：ラーニングイノベーションングランプリ」

産学連携における相互理解の場ともなっている“ラーニングイノベーションングランプリ”を取り上げて解説いただいている。このイベントは，教育システム情報学分野において，イベント事体を，モバイルラーニングコンソシアムとの間で産学連携実施しているという特徴もある。そして，“学”における研究を，“産”が評価するということの意義や，イベント関係者の思いをも赤裸々に解説いただいた。本記事を読んだ読者の次のアクションは，それへの「挑戦」である。